

◆ 新収蔵資料紹介（令和6年度7月）展示解説シート ◆

## 馬の美しさを写しとる ～坂本繁二郎版画～

さかもとはんじろう

会期：令和6年7月2日(火)～7月30日(火)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和6年3月26日付けで本市が寄贈を受けた、坂本繁二郎版画「馬」を初公開します。日本の近代美術を代表する洋画家である繁二郎は、生涯にわたり、牛や馬、能面や月などを題材に、多くの油彩画・水彩画を描くとともに、版画の制作も行いました。本作は、草を食む馬の頭部をクローズアップした多色刷りの版画で、昭和42年(1967)に加藤版画より発行されました。馬の頭部を彩るさまざまな色からは、毛並みの色調に美しさを見出した繁二郎の、優れた色彩感覚が見てとれます。

### ●坂本繁二郎版画「馬」

馬の頭部には青、緑、黄、紫などの多彩な色が用いられています。繁二郎は、馬の美しさは「体形とともにその色調」にあるとし、毛並みは「空の光や、周囲の事情で黒毛も青く光り緑と輝く」と述べました(坂本暁彦編『坂本繁二郎全版画集』、1980年)。実際の毛並みの色にとどまらない本作の表現は、こうした繁二郎の色彩感覚に基づいているといえます。



### ●坂本繁二郎

明治15年(1882)、旧久留米藩士・坂本家(京町)に生まれる。同24年、久留米高等小学校に入学、青木繁と級友となる。同28年、森三美より洋画の手ほどきを受け、同33年より久留米高等小学校の図画の代用教員を務めた。大正10～13年(1921～4)のパリ留学の後、郷里・久留米市へ帰る。昭和6年(1931)に八女市へ転居し、制作に取り組んだ。享年87。

